

「大学教育の質保証」に向けた 遠隔授業・卒論指導・キャリア支援

人間環境大学 松山看護学部

教授 三並めぐる¹ 教授 岡 多枝子²

・人間環境大学松山看護学部では、「**大学教育の質保証**」に向けた「**DPを達成するCP・AP**」の原点に基づき、入学・オリエンテーション・授業・実習・看護研究(卒論)・進路決定・看護師・保健師資格取得・卒業の**一貫した看護教育**を進めてきた。

・発表者₂は、**遠隔授業**に**ALとSDGs**の視点を導入し、シラバスの共有とテキストによる「**知の獲得**」を重視した主体的・対話的で深い学びを目指して**事前指導・授業・事後指導**を行っている。**卒論指導**は、**KJ法**による**テーマ探索**、電話・メールによる**個別指導**とゼミ内での共有を通して、各ゼミ生は第一稿を提出した。今後も**DP・CP・AP**の**融合**による**キャリア支援の好循環**を継続する。

Keyword 大学教育の質保証 知の獲得 アクティブラーニング SDGs KJ法

1-1.人間環境大学

岡崎キャンパス
人間環境学部



こころ

心理学科

人のこころの仕組みを学び、
実社会で活かす

環境

環境科学科

自然と社会を理解し、
持続可能な社会を創造する



<大学院>

人間環境学研究科
(修士課程)

大府キャンパス 看護学部



いのち

看護学科

時代が求める
看護のスペシャリストを育成



<大学院>

看護学研究科
(博士前期課程・
博士後期課程)

松山キャンパス 松山看護学部



いのち

看護学科

地域医療に貢献できる
高度な看護職者を育成



「いのち」
「こころ」「環境」

1-2. 信頼性の高い大学を目指す人間環境大学

【信頼性】からの【質保証】が大学の基本方針

• 教育の信頼性

- 1) カリキュラムの信頼性
- 2) 教育評価の信頼性 (FD・SDの日常化)
- 3) 就職の信頼性
- 4) 教育情報の信頼性

• 研究の信頼性

- 1) 公共的・社会/倫理的な信頼性
- 2) 教育貢献(研究・教育)の信頼性
- 3) 教育研究支援の将来的な信頼性

• 地域貢献・地域連携・企業/組織連携の信頼性

- 1) 社会開放的な(就職・コア資格)カリキュラムの信頼性
- 2) カリキュラムとの整合性の高い地域貢献・地域連携・企業/組織連携の信頼性
- 3) 大学の特長を生かした社会人再教育(リカレント・リフレッシュ教育)の信頼性

1-3. 松山看護学部の特徴

- 看護師資格 + α 「看護師」に加え、「保健師」の資格取得
 また、4つの選択強化プログラムで専門性追求

保健師コースと4つの選択強化プログラム

看護師資格 +

- 保健師コース（保健師国家資格）

時代が求める看護師を育成
 専門技術 [強化] プログラム

看護師資格 +

- 小児看護 [強化] プログラム
- がん看護 [強化] プログラム
- 認知症看護 [強化] プログラム
- 在宅・終末期看護 [強化] プログラム

自分が目指す夢

- 看護師
- 保健師
- 助産師
- 大学院進学
- 看護教育者
- 専門看護師
- 認定看護師
- など

1-4. 看護は実践の科学

• 学内演習

1年生：生活援助方法論（後期）

2年生：診療援助方法演習

3年生：各看護援助論Ⅱ：母性・小児・成人・高齢者・精神・在宅・地域公衆衛生

4年生：ヘルスアセスメントⅡ、公衆衛生看護援助論Ⅲ・Ⅳ



• 臨地臨床看護学実習

1年生：基礎看護学実習Ⅰ（8月）

2年生：在宅高齢者看護学実習（8月）・基礎看護学実習Ⅱ（2月）

3年生：各領域看護学実習：母性・小児・成人急性・成人慢性・高齢者（9月～2月）

4年生：各領域看護学実習：精神・在宅（5月～7月）・統合看護学実習（7月）➡ 学内実習

保健師コース：地域・公衆衛生看護学実習：8月～10月

2-1. 遠隔授業 (ALとSDGsの視点を導入) 事例

発表者²は、「**知の獲得**」を重視した遠隔授業を行っている。

- **事前**: 教員が遠隔授業開始前に受講生にData Dietした資料・グループ (以後、G.) テーマ・担当係の詳細をmail送信
- **授業**: コマシラバスとテキストを共有して基本概念・知識理解を図る。主体的 (リーダーやmail係を募る、trial and error)・対話的 (Gmail会議) で深い学びを喚起する縦 (時間)・横 (グローバル) G.ワークの構築
- **事後**: 提出課題 (Wordわ・が・と・も)、G.PPTやG.作成のテスト (岡ら2018) をmailで提出

2-2. 遠隔授業の具体 (先週から開始、各科目2回終了時点)

- 3年生「公衆衛生看護援助論」:連休前に初回授業の概要PPTとテスト(Word)をmail送付。授業はコマシラバスとテキストを共有し、テーマ(COVID-19、After C・Post C・With C、ダブルライセンスの先etc.)をGmail会議。SDGsを加味したレポート課題(Word)
- 3年生「健康相談活動論」:事前に授業概要PPTをmail送付。授業はコマシラバスとテキストを共有し、テーマ(養護教諭の行う健康相談事例検討)をGmail会議。レポート課題(Word)
- 1年生「社会保障論」:事前にPC操作方法補足・授業概要PPT等をmail送付。授業はコマシラバスとテキストを共有し、テーマに分かれてGmail会議。レポート課題(Word・PPT)

2-3.遠隔授業のメリット(学生レポートの抜粋)

※遠隔授業のメリットが多く書かれているが、今後デメリット検証も必要

- **パンデミック終息に参加:**遠隔授業で世界的最優先課題の感染拡大防止に貢献している。「ひとりも取り残さない」「健康と福祉」
- **学習効果:**教員との距離が近いので講義が頭に入りやすい、私語・居眠りもなく授業に集中でき、教室(社会的空間)より質問・発言が容易。自宅学習時間が増加。「質の高い教育を皆に」
- **利便性:**全国どこからでも受講でき、再視聴により知識が定着する。通学費用や時間も節約できる。「エネルギー・環境保全」
- **Gmail会議:**メンバー間の協力関係構築、本音トークによって事象を多角的・批判的に思考する経験もできる。「パートナーシップを」



3. 卒論(看護研究)の集中指導

- 4年ゼミ生に卒論(看護研究)の指導を行った。
- 自由討論: 事前に用意した「大学の授業や実習を通じた学び・看護師国家試験や卒後の進路希望など」を出し合い、KJ法(川喜田1986)によるテーマ探索と確定を行った。
- 電話・メールによるチュートリアル(個別指導)と、その成果を全員返信のゼミメールで共有する方法によって各ゼミ生は4月中に第一稿を提出した。

4. キャリア支援と今後の課題

- 今後もDP・CP・APの融合によるキャリア支援（入学・授業・実習・卒論・進路・資格・卒論）の好循環を継続する
- 予期せぬ障壁で強まるレジリエンスと当事者性の獲得が、新たな教育の地平を拓く可能性がある
- 今後、さらにエンパワーメント（学修成果や実習・進路選択の学年間交流、大学祭での発表etc.）を試みる
- 教員もTPF・FD等で授業改善と実証研究の継続が必要

参考文献等

- 川喜田二郎: KJ法—渾沌をして語らしめる—, 中央公論社, 1986.
- 岡多枝子・三並めぐる・眞鍋瑞穂・矢野美恵子: 養護教諭・保健室・学校保健のレリバンス—ALで浮上する当事者の眼差し—, 第51回中国・四国学校保健学会, 2019a.
- 岡多枝子・三並めぐる: アクティブラーニングによる保健・医療・福祉教育のレリバンス, SPOD Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education フォーラム2019大学教育の組織力, 2019b.
- 岡多枝子・三並めぐる: 総説 保健・医療・福祉専門職を志す学生がアクティブラーニングで獲得するレリバンス, 人間環境大学松山看護学部紀要, 2019c.
- 岡多枝子: アクティブラーニング—学生主体のプレゼンテーション— 保健・医療・福祉専門職を志す学生がアクティブラーニングで獲得するレリバンス, 電子情報通信学会 IA研究会, 2019d.
- 岡多枝子・三並めぐる: Improving “Relevance” of First Aid Skill of School Nurses-Image of School Nurse’s Room through a Case of Active Learning-, The International Conference on Advancement in Health Sciences Education and Professions , 2019e.
- 岡多枝子・三並めぐる・日川幸枝・眞鍋瑞穂: 学校保健・社会福祉学教育のプログラム開発—当事者性を高めるアクティブラーニング—, 大学教育カンファレンスin徳島, 2018a.
- 岡多枝子・眞鍋瑞穂・三並めぐる: 学生がテスト問題をつくる, シリーズ編集 中井俊樹 編集 小林忠資・鈴木玲子: 看護教育実践シリーズ4, アクティブラーニングの活用, 55, 2018b.
- 岡多枝子・眞鍋瑞穂・三並めぐる: 看護学生に対する福祉・社会学教育のレリバンス—アクティブラーニングによる実証研究—, 龍谷教職ジャーナル, 18-32, 2017.
- 岡多枝子, 大浦明美, 奥山留美子: 青年期における福祉の学び—高大連携—, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 27, 94-103. 2016.
- 岡多枝子: 青年期に福祉を学ぶ—福祉系高校の職業的及び教育的レリバンス—, 学文社, 2015.